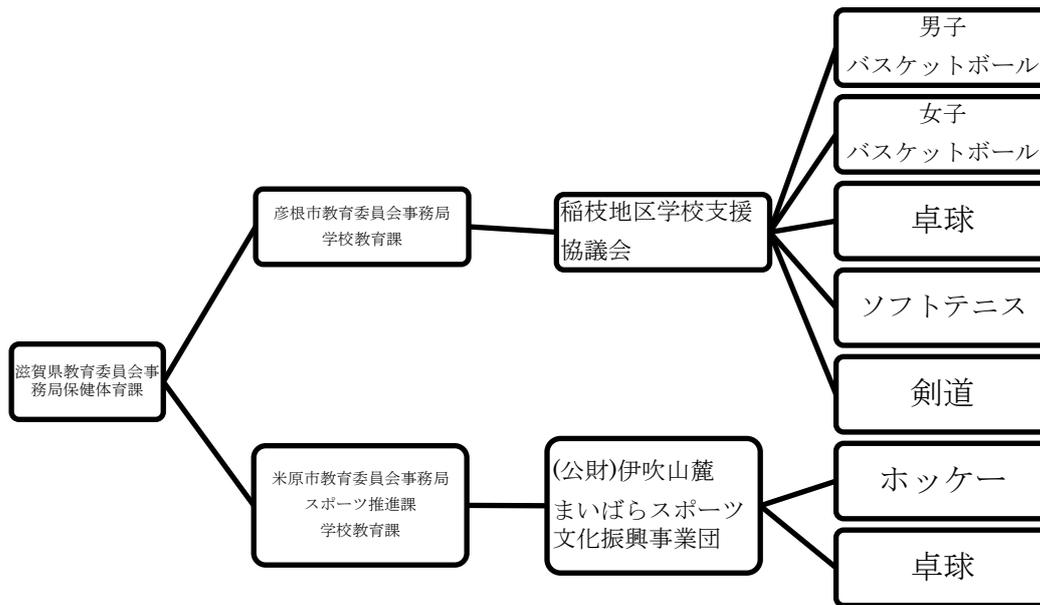


令和3年度休日部活動の段階的な地域移行に係る
実践研究成果報告書

滋賀県教育委員会

1 地域運動部活動実践研究実施体制



2 成果と課題

(1) 運営団体

○ 成果

- ・ 運営主体（団体）が、公益財団法人、学校等から一定の距離を確保できる場合は、学校等の関与を最小限にすることができた。

○ 課題

- ・ 運営主体（団体）が、保護者会、PTAや学校支援団体等である場合は、学校との関係性が強く、運営主体（団体）の主体的な運営が形骸化し、学校側今まで以上に大きな負担が生じる可能性がある。

(2) 指導者

○ 成果

- ・ 従前から当該部活動を支援・指導してきた団体、指導者やスポーツ少年団指導者（以下、「外部指導者」という。）の場合は、生徒、顧問や保護者等との連携が円滑に行うことができた。
- ・ 部活動によっては、外部指導者と顧問との連携を十分に図ることができた。

○ 課題

- ・ 外部指導者の単独配置は、緊急時（事故や怪我等）の円滑な対応に懸念がある。
- ・ 外部指導者にとって、引率や技術以外の指導は負担が大きい、自信が持てない。
- ・ 顧問との密接な連携が重要だが、部活動によってはそのための時間がとれない。

(3) 顧問

- 成果
 - ・ 部活動の従事時間が減少した。
 - ・ 外部指導者から、有効な助言等があった。
- 課題
 - ・ 個別対応が必要な生徒については、すべて（引率、生活指導、教育上の指導を含む）を依頼することに懸念がある。
 - ・ 保護者から、生徒への指導を手放すのではないかとの心配がある。
 - ・ 外部指導者との連携に時間を費やす必要がある。その時間の確保は、非常に困難である。

(4) 生徒

- 成果
 - ・ 従前から関わりがある場合は、円滑に連携や引継ぎができた。
- 課題
 - ・ 学校部活動の延長と考え、参加が強制と感じる生徒がいる。

3 休日部活動の地域移行の推進について(指定項目)

(1) どうしたら、関係団体と円滑に、地域移行を推進できる体制を構築できるか

本県で想定される地域移行の拠点は、総合型地域スポーツクラブ（以下「地域クラブ」という。）である。しかし、既存の県内市町「地域クラブ」の、主な加入対象者は高齢者であり、「地域クラブ」で中学生の指導を請け負ってもらうことに抵抗がある。

本実践研究の未実施地域では、本件を検討する際、受け皿となる地域の運営主体（団体）を探す段階で行き詰まった。実施地域の米原市においては、既存の「地域クラブ」がNPO法人ではなく、長期的な運営が困難との理由で請負を辞退している。その後、米原市内の財団が請け負うことになった経緯を踏まえても、県内「地域クラブ」を活用する体制構築には課題がある。

「地域クラブ」に代わる運営主体（団体）として、地域財団、地域スポーツ協会や地域スポーツ少年団等が挙げられるが、本県の当該運営主体（団体）は、ほぼ中学生を受け入れていないため、段階的に(できる範囲から)地域移行していく体制構築が望ましい。

本県では、地域で移行していく時期や期間が異なると予想されることから、その間の大会運営や参加体制が不明瞭となり、生徒たちの参加機会に大きな影響を及ぼすことにつながり、新たな課題が浮き彫りになる。

(2) どのような支援が、拠点校の取組や関係団体の協働を効果的に促進することができるか

国からの、費用面での支援は、絶対的に必要である。

本年度の拠点には、配慮を要する生徒の行動等が心配であることを理由に、地域指導者へすべて（引率、生活指導等、教育上の指導を含む）を任せることができないと考えた教員（顧問）がいる。また、技術面の指導だけでなく、すべて（上記に同じ）を任せたくない地域指導者もいる。さらに、「休日でも部活動は学校が行うもの」「教員が指導するもの」という固定概念を持つ保護者もいることから、現時点において、休日部活動を学校から地域に移行していくための課題は山積している。

そこで、「休日部活動の地域移行」の目標は、学校から完全に切り離すことではなく、既存の活動の中で地域との協働等に取り組みながら、教員の休日の負担軽減を目指すことが重要と考えた。例えば、これまで、生徒の事故・怪我等の緊急対応のために複数教員で指導・監督を担ってきた実態から、休日部活動は、地域指導者と教員（1人）で対応する等に移行していく等が考えられる。

この対応を継続し、生徒、地域指導者、保護者や教員等に、経験と工夫等が蓄積され、地域指導者のみの指導や保護者会等の協力が定着することで、さらに教員の負担軽減につながることを予想される。また、休日部活動は、学校との関連を重要視することで、生徒の大会参加機会・条件調整（緩和）など、生徒、保護者や学校の不要な不安・混乱をなくすることができる利点も考えられる。

(3) どうすれば、改革の取組を円滑に、他地域に普及していけるか

休日部活動を完全に学校から切り離す取組は、実施主体（団体）等の心配、不安や負担感ばかりが先行するだけでなく、学校側からの依頼が現実的ではないという認識が一般化する可能性があり、取組の改善が必要である。現在、本県の請負を検討する実施主体（団体）は、すべての学校や運動部活動を請け負うことは想定していない。現実的には、移行範囲（学校や部活動）の共通理解が図られたうえで、請負の検討を進めることになるが、やはり、生徒の大会参加機会・条件調整において大きな課題がある。この課題の解決は、来年度の実施だけでなく、他地域への普及のためには必要条件である。

また、最大の課題の一つに、地域指導者の報酬等を含む経費面が挙げられる。実践研究拠点（2市）からは、国からの経費負担（支援）が必要との回答があり、全経費を受益者負担とする考えは、短期的な課題として解決できないとの意見が主流であった。また、保護者アンケートでは、月額1,000円から2,000円の負担は可能との回答が半数程度みられたが、経営・運営の実現には程遠い金額とも言える。つまり、この課題の解決には、一定、国等からの経費負担（支援）が必要であると考えられる。

(4) 運動部活動を地域に移行することにより、地域スポーツの振興の観点からどのような効果が期待できるか。

今般の学習指導要領改訂において、「社会に開かれた教育課程」を重視する基本的な考え方が示された。また、生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動は、学校教育活動の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意することも示されている。これらのことから、学校内で完結していた部活動が社会に開かれていく方向は自然なことであり、休日部活動の地域移行の推進は、社会や家庭での充実した教育につながり、地域理解が一層進むものと考えられる。

(5) 地域移行の達成時期について、いつを目標とすることが適切か。
また、その理由はなにか。

達成時期を優先するあまり、生徒や地域の実態に合わない取組を計画しても、運営段階で摩擦や不合理が生じる可能性が高い。特に、公正で公平な生徒の大会参加機会を担保するためには、学校からの移行状況が地域間で大きく違うことは望ましくない。一方で、新体制の構築には、生徒や地域の実情に合わせることも重要であり、ある程度の運用幅を持たせることも必要である。

以上のことから、望ましい達成時期の設定は、最重要課題とは考えない。

令和3年度

稲枝中学校地域運動部活動 推進事業活動報告



彦根市立稲枝中学校
稲枝地区学校支援協議会
稲枝中学校地域運動部活動推進事業

目 次

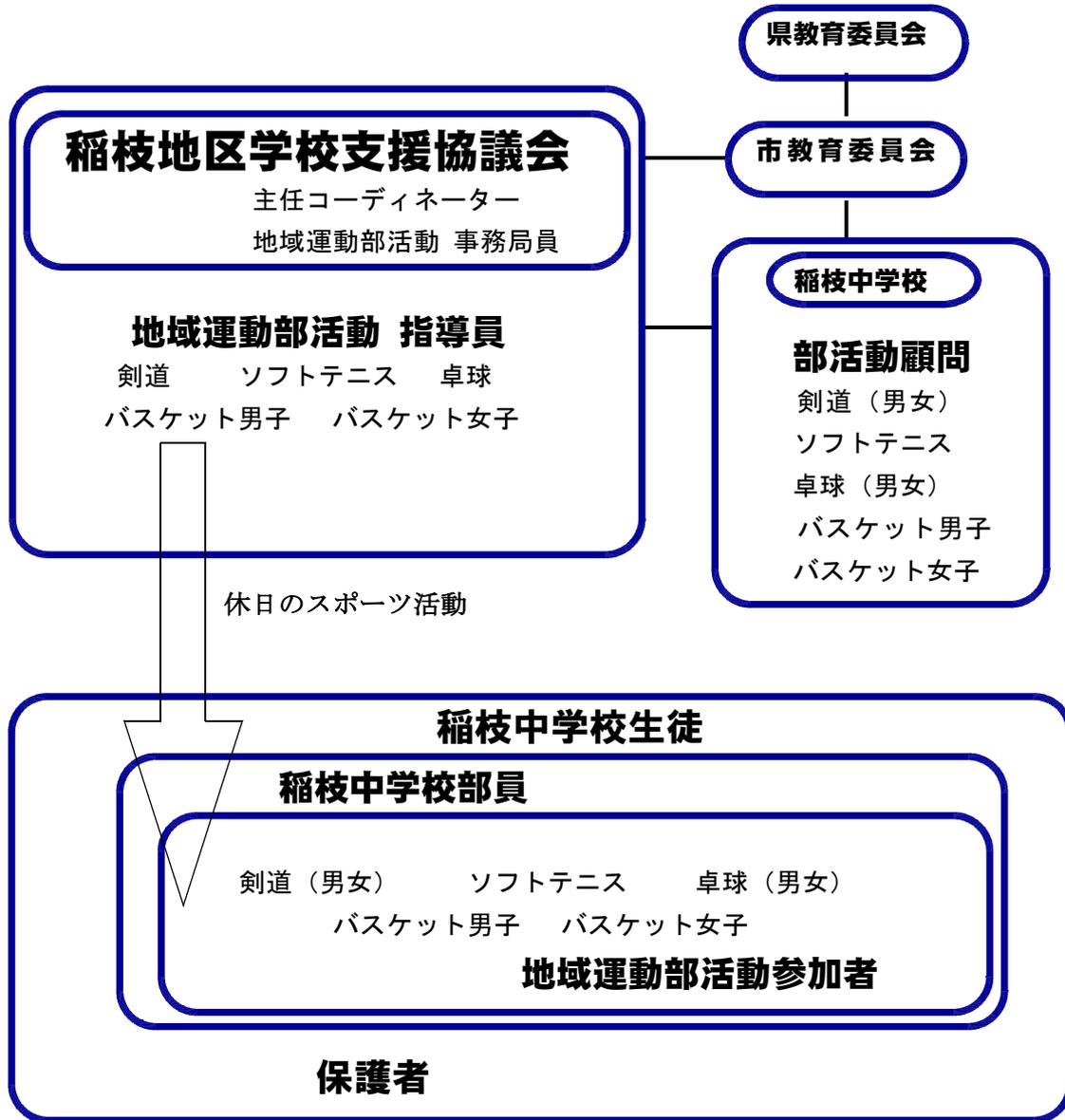
		page
1	あいさつ 稲枝中学校 北村 功 校長	1
2	稲枝中学校地域運動部活動推進事業規約	2
3	組織図（休日部活動の地域移行 稲枝中モデル事業）	3
4	部活動設置状況・地域部活動、地域指導者	5
5	活動報告	
	① 各月別活動状況（7月～2月）	7
	② 各部地域指導者の感想	15
	③ 各部部員の感想	18
6	今年度の反省 地域運動部活動推進事業事務局 木村	20
7	資料	
	学校の働き改革を踏まえた部活動改革 概要（文部科学省）	21

地域運動部活動推進事業拠点校 1 年目を終えて

稲枝中学校校長 北村 功

学校の部活動については、学習指導要領の総則の中で「教育課程外の学校教育活動と教育課程の関連が図られるように留意するものとする。特に、生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については、スポーツや文化、科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等、学校教育が目指す資質・能力の育成に資するものであり、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるように留意すること。その際、学校や地域の実態に応じ、地域の人々の協力、社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行い、持続可能な運営体制が整えられるようにするものとする。」とうたわれています。しかし、学校現場では休日を含め、長時間労働の要因であることや、専門外の指導に当たる負担などにより生徒にとって望ましい指導が受けられないという課題が解決されてきませんでした。稲枝中学校では以前からいくつかの部活動で「クラブチーム」を地域の有志の方が立ち上げ部員に活動の場を保障されていました。また、部活指導員やボランティアとして部活指導にも協力をいただいていた方もおられたことが、本年度、地域運動部活動推進事業拠点校として取り組みがスタートできた要因です。しかし、各部活動において休日の部活動を地域運動部活動へ移行するための運営団体が存在していないことや各指導者の方々・教職員の部活動改革に向けての理解、そして何より生徒・保護者にとって望まれるしくみとなるか、関係者の方々の尽力により一つ一つ障壁を取り除きつつスタートしました。作っていただいた組織を盤石なものにしていくことはもとより、今後の生徒数の減少や生徒のニーズにこたえていくためにも、学校単位ではなく市町単位での取り組みとなれば兼職兼業で指導を希望する教職員にとっても活躍の場が広がることになると思います。学校・地域・生徒・保護者の相互に利益が生じるように研究を深めたいと考えています。

地域運動部活動組織図



稲枝中学校区地域支援本部地域運動部活動

共通活動目標

- ①体力や技能の向上
- ②生徒の多様な学び(より自主的な取組)の場
- ③地域交流、地域活動としての定着

共通項目

- 【参加者】 稲枝中学校在籍で、競技種目に興味があり、土日、休日の練習に通える者
- 【大会等参加】 中体連主催大会、強化事業や中央団体主催大会については、稲枝中学校として参加可能。
- 【事故ケガ対応】 各自で保険加入。
- 【活動費用】 保険代、活動消耗品代は不要

女子バスケットボール

- 【指導者】 奥村和彦先生
- 【活動場所】 稲枝地区体育館
- 【活動日時】 原則、土曜日の半日
その他休日の大会等への参加

男子バスケットボール

- 【指導者】 木村輝男先生
- 【活動場所】 稲枝地区体育館
- 【活動日時】 原則、土曜日の半日
その他休日の大会等への参加

剣 道

- 【指導者】 早瀬 先生
- 【活動場所】 稲枝中武道場
- 【活動日時】 原則、土曜日の半日
その他休日の大会等への参加

ソフトテニス

- 【指導者】 赤田 先生
- 【活動場所】 荒神山テニスコート
- 【活動日時】 原則、土曜日の半日
その他休日の大会等への参加

卓 球

- 【指導者】 中川 先生
- 【活動場所】 稲枝地区体育館
- 【活動日時】 原則、土曜日の半日
その他休日の大会等への参加

地域運動部活動(稲枝中学校)拠点校 アンケート

1. 生徒アンケート

	2年生	1年生
月～金までの部活動は	楽しい 90% 楽しくない 10%	楽しい 91% 楽しくない 9%
	好きだから・仲が良いから・基本練習がしっかりできる・達成感がある	好きだから・友達と協力できるから・話が楽しい・上達を感じる・先輩とできる
	飽きてしまっている・疲れる	練習の効率が悪い・時間が短い
休日の部活動は	楽しい 84% 楽しくない 16%	楽しい 86% 楽しくない 9%
	好きだから・平日ができないことができる・長時間できる・コーチが来るから	好きだから・長時間できるから・技術の向上がある・新しいことを教えてもらえる
	休めないから・しんどいから	成長を感じない・時間が長い
休日部活動の参加目的は	技術の向上 68% 楽しみ 39% ストレス発散 13% みんなが行くから 19% 休日はしたくない 16%	技術の向上 57% 楽しみ 57% ストレス発散 14% みんなが行くから 33% 休日はしたくない 12%
休日部活動の指導は	厳しい 26% 前と変わらない 68% 優しくなった 6%	厳しい 5% 前と変わらない 86% 優しくなった 7%
休日部活動の指導で	技能が上達した 94% 変わらない 3%	技能が上達した 67% 変わらない 29%
休日部活動に 以前より	集中できる 26% 変わらない 71% 集中できない 3%	集中できる 29% 変わらない 67% 集中できない 2%
	コーチの指導が理解できてきた・指導者がスゴイ・上達を感じる・楽しくなってきたから・小学校からずっと見続けている先生だから	コーチが丁寧に指導してくれる・技術向上のため・新しい練習ができる・目標ができた・頑張っている友達が多いから・休憩時間に友達と話すのが楽しい
		価値観が違うから(やる気のない人がいる)

2. 保護者アンケート

以前と比べて(1学期)、休日の部活動に前向きに取り組んでいますか	前向き 32%	意欲的な発言や行動がある・試合に勝ちたい・コーチが一生懸命	
	変わらない 43%		
	休みがち 6%	本人に意欲がない・天候による・コロナだから	
休日の部活動に求めることは何ですか	技術の向上 65%	・ 楽しみやストレス発散 52%	・ 休日は、ない方が良い 6%
休日の部活動は、他の学校活動に影響ありましたか	はい 7%	→土日の両日に活動がある・テスト前の休日に終日活動がある	いいえ 93%

指導者への謝金を含む月謝が必要になった場合いくらまで負担いただけますか	0円	月500円	月1000円	月2000円	月3000円
	7%	29%	40%	15%	9%
保護者として練習をサポートできますか	はい	44%			
	いいえ	56%			

3. 教職員アンケート

休日における部活動は、時間的な負担になっていますか？	なっている	91%
	なっていない	9%
休日における部活動は、精神的負担になっていますか？	なっている	55%
	なっていない	45%
地域部活動は、生徒のために	進めるべき	50%
	やめるべき	5%
	わからない	45%
休日部活動の地域移行をどう思いますか	必要	50%
	わからない	45%
	不要	5% 教員と生徒の関係性や外部指導者との調整などマイナス面が多い
	<input checked="" type="checkbox"/> 必要 教員の考えも多様化しているため・地域でスポーツ振興の意識が高まると良い自己研修に使える・クラブ化することで技術力はつく・地域の方に学校にかかわってもらえる・教員は異動などがあるため・現段階ですべてを地域の方にまかせるのはまだ、体制が整っていない。 <input type="checkbox"/> 不要 教員と、生徒の関係性や外部指導者との調整などマイナス面の方が多いように思う	
あなたは、今後兼職兼業の許可を得て、休日の部活動に携わろうと思いますか	はい	18%
	いいえ	82%
休日部活動開始前と比べて、従事時間はどれだけ減りましたか	0分(2人) 支援生徒が多いため 240分(3人) 720分 1200分	
休日部活動を進める中で、部活動の精神的・時間的な負担はどう変わりましたか	・自分の時間後持てるようになり大変ありがたい・休日は地域指導者がいるので教師は一人でもよい。ただ、一部の教師負担になってることがある。 ・地域の指導者が一人いることで多くの大人に見守られているからよい。 ・受益者負担でなく公的な予算計上が必要である。 ・私自身自分の地域でスポーツ指導をしてみたい・部活動とクラブの線引きが難しい・技術指導していただけることはありがたいが地域の指導者にすべてを任すことはできない・地域指導者と協力体制をつくるなどの精神的な負担が大きい・継続的に進めていくべきである。そのためにも予算など検討していく必要がある。	

4. 指導者

休日部活動は、何を目的に指導されていますか？	技術の向上	88%
	楽しみストレス発散	13%
	活動の継続	75%
	体力づくり	13%
次年度も引き続き指導いただけますか？	はい	88%
	わからない	12%
	いいえ	0%
指導に対する謝金は適切ですか？	高い	0%
	適切	88%
	安い	12%
<p>指導するうえで課題は何ですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人数が多いため平等性を持って対応している。成功体験や努力の大切さを学んでほしいので、厳しさも大事であるが、楽しさを残すためにもバランスが難しい。 ・競技の特性で活動が屋外であることから天候に左右されることが多かった。 ・学校教職員への理解が必要 ・学校の指導者との連携 ・生徒の学校生活の把握 ・受け身の生徒が多く、何をしたいのか？何に困っているのかわからなく今後個別に関わって進めていきたい。 ・コミュニケーションをとる学校の教員の理解度と協力体制 ・教職員が部活動を全て地域指導者に丸投げにしてはダメである。学校教育において、部活動は重要な位置を示しているためである。また、保護者の考えを尊重したクラブにする必要がある。保護者の意見を聞くことも必要である 		

運営主体用

<p>運営するうえで、課題は何ですか？</p> <p>(地域推進部活)</p> <p>現在、5部の対象であるが可能なら学校全体の運動部で実施できるとよい。対象外の部の意欲ある生徒が活動できない。地域で生徒を育てるという意識でスタートしたが、始めるに当たっての保護者への趣旨徹底が十分でなかったため、部活動のとらえ方と変わらなかった。</p> <p>(予算)</p> <p>今年は特にコロナ感染拡大により、練習が中止になるなど当初予算額に対して執行額に差が出たこともあり、弾力的な運用ができるとよい。</p> <p>次年度以降の継続的な国の予算計上が見通せない中、受益者負担を保護者に強いるには、学校全体で取り組まないと不公平感が生じる。</p> <p>(指導者)</p> <p>学校に理解ある地域の指導者を確保することが、課題である。</p>

事務局の事務内容を記入ください

- 指導者謝金、旅費等の月ごとの計算と支払い業務
- 各部活動消耗品希望調査と業者への購入業務
- 各部連絡調整と指導者全体会議
- 学校との連絡調整

事務内容に対する謝金は適切ですか？

高い

・

適切

・

安い

部員の感想

男子バスケットボール部 2年 中邨 圭汰

「地域運動部活動」へと移行しましたが、男子バスケットボール部は、以前と変わらず顧問の先生のもとで活動しています。「県大会ベスト8」を掲げていますが、まだそこまでの実力はありません。ハンドリングの技術のみならず、体力や体幹の強さといった基本的な体づくりを含めて身につけなければいけないことがたくさんあります。そのため、ハードな練習メニューにも果敢に挑戦し、チーム全体が強くなることができればと僕は考えています。

部活動の引退が迫ってきている中で、どうしたら悔いの残らないようにできるのか、そういった部分にも目を向けて、残り限られた時間を大切に過ごしていきたいです。



女子バスケットボール部 2年 北村 夏帆

地域指導員として奥村先生に来ていただいて、休日の部活動がより充実したものになりました。

奥村先生は私たちに技術面でも身体面でも専門的な知識をもって指導してくださいます。

例えば、試合に勝つためのフォーメーション、基礎トレーニングなどです。時に厳しく、時に私たちの気持ちに寄り添い声をかけてくださるおかげで楽しく部活動を続けられています。また、高校に合同練習に連れて行ってくださるので、レベルの高いチームと試合ができ、自分自身の成長を感じることができます。

奥村先生のおかげで、私たちはブロック一位になることができたと思っています。これからも奥村先生にバスケットボールを教えてもらいたいです。

ソフトテニス部 2年 安居 花凜

私は、地域運動部活動によって、以前より自分で考え行動する力がついたように感じられます。今、コロナウイルスの影響もあって自分と向き合う時間が多くなりました。今まで言われたことをこなすだけの練習が、うまくいかないことは自分で考え、チームメイトと考え、それでもわからない時は先生にアドバイスをいただく、という習慣がついたと思います。初め私は、「地域運動部活動」に移行すると知ったとき、環境が変わることに不安がありましたが、練習環境にさほど変化はないように思います。結局自分を変えるのは周りの環境ではなく、自分自身であるということにも気づかされました。残り活動できる時間を大切に、これからも練習に励みたいです。



剣道部 2年 中谷 颯

剣道部では、この制度が始まる前から小学生の頃のスポーツ少年団でお世話になっていた先生に指導していただいています。そのため、この制度が始まったことによる大きな変化はあまりありません。しかし、この制度を通じて、それだけ先生にお世話になっているのだということに改めて気づくことができ、先生にとっても感謝しています。



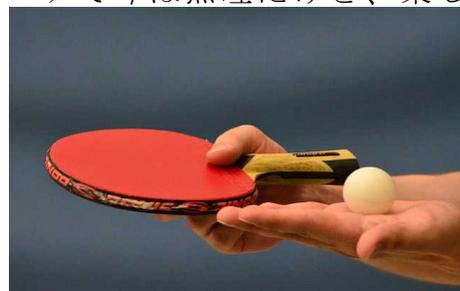
僕は今年、剣道部の副部長になりました。部長をサポートする大切な役割で、先輩がいた頃とは違い、試合で簡単に負けるわけにはいきません。チームに貢献できるように、先生の指導の下で人一倍努力し、頑張りたいです。

男子卓球部 2年 山口智生

僕が、地域運動部活動で活動してみて感じたことは、卓球の技術が上達したことです。僕自身、相手の取りづらい所に球を出すことが苦手でした。ですが、地域運動部活動が実施されて、コーチが来てくださり、とても丁寧に教えてもらえ苦手だった取りづらい所に出すことができるようになりました。

他には、楽しくできたことです。コーチに初めて出会ったときには「とても怖そうだなあ。」と思っていましたが、気さくに声をかけてくださったり、おもしろい話をしてくださったり、いろいろ優しく声をかけてくださり面倒くさい基礎練習や難しい練習も楽しくすることができました。

たくさんの経験ができた地域運動部活動は、コロナで今は無理だけど、楽しみにしています。



女子卓球部 2年 田中 莉子

私は、地域の指導員の方が休日に教えてくださることで、平日の練習では分からないことや、専門的な技術を知ることができ、とても感謝しています。地域の指導員の方のおかげで、平日の部活よりも、充実した練習ができていると思います。また、試合や大会がある時に仕事を休んで私たちのために来てくださるのはとてもありがたい事だし、すごく感謝しています。卓球部は、初心者が多い部活なので、地域の指導員の方が教えてくださる事で上達していけていると思います。

的確なアドバイスをしてくださることで、良い練習ができたり、試合で勝てたりできているので、これからも地域の指導員の方には教えに来ていただきたいです。

今年度の反省と課題

地域運動部活動推進事業事務局 木村輝男

近年、教職員の日常の業務が教科指導、学級指導はもちろんそれ以外の生徒指導、保護者対応など増えてきており、勤務時間を越えた土日曜の部活動までとても見られない。という学校現場のつぶやきから、「教職員の働き方改革」の推進が言われてきた。

一方、生徒側の立場になると、学校生活が学習面だけでなく部活動によって自分の生きがいを見だし高度な技術や目標を持って取り組みたい生徒や、能力を高めたい、充実させたいと思っている生徒も多くいることも事実である。

そうした狭間の中で、意欲のある生徒を対象に教職員に代わって「地域の子供たちは地域で見守り育てる」というフレーズのもとに、稲枝中学校地域運動部活動推進事業を立上げ、他校に先駆けて実践研究校(モデル校)として5つの部で外部指導者が土日曜を中心に指導することとなりました。

いずれの部においても、従来からボランティアに関わってもらっていた指導者であり、指導者においては当初からスムーズに移行できたように思います。ただ活動がコロナ禍の中でのスタートであったため、なかなか軌道に乗らない一年でもありました。一年を終わるに当たって、この稲枝中学校での取組みの課題や成果、感想などをまとめ、次年度に生かしていきたいと思えます。



(事務局内練習予定表)

今年を振り返って

○学校全体で取組みの必要性

今年は5部で実施できたが、できるなら全校体制ですべての部で実施することにより、教職員、保護者、地域全体への広がりや理解がより一層深まると思われる。

○教員と指導者の連携が大切

中学校の生徒を地域の指導者と教職員が一緒になって育て成長させる。という意識を持つことが大切である。そのためには、日常の学校生活の様子や休日の部活動の様子など教員と地域指導者が機会ある毎に話合うことによって、一貫した指導が可能になる。

○地域の指導者の発掘が急務

部活動を指導するには専門的な知識、技能を兼ね備えていることに越したことはない。運動部に限らず、吹奏楽部のように専門性のいる部には、高度な知識、指導技術を持った指導者が必要である。そうした指導者を発掘することが必要である。

○体制整備の必要性

中学校体育連盟に属する部活動と地域部活動との連続性(大会への参加)を整理し地域部活動でも参加可能になるように体制整備をする必要がある。

○保護者への理解と協力が必要

今年度は、モデル校ということもあり、事業すべて委託費で運営できたが今後この事業を進める上で、受益者負担に移行していくことももあることから、この事業の趣旨を保護者に理解を得る必要がある。

また、地域指導者は参加する部員が、技術が向上し、充実した活動となるように日々研鑽し指導力量を高める必要がある。

彦根市（稲枝地区）地域運動部活動推進事業から

① 地域移行を推進できる体制をどう構築するのか？

小～中学校の9年間、子どもたちの多くは自分の住む地域の学校に通います。稲枝地区では、地域の未来を担う子どもたちが将来どんな人に育ってほしいかを学校・地域・家庭でともに考え、地域ぐるみで子どもたちの学び・育ちを支援する取組があります。その中心を担う1つが、「稲枝地区学校支援協議会」です。

稲枝地区学校支援協議会は、実際に学校と地域住民とを結びつける「地域コーディネーター」、そして地域住民や保護者からなる「地域ボランティア」で成り立っています。

部活動においても、スポーツ少年団から熱心に指導してきた指導者が引き続き中学生になっても指導を継続することで、子どもや保護者にとっても安心して任せられることになります。教職員はいつか異動しますが、地域の人はずっと居続けます。だからこそ、地域の人が子どもに積極的に関わっています。

地域ぐるみで子どもを育てることが、豊かな地域づくりにつながっていくと考えています。

② 拠点校へのサポートを充実させるためには？

児童・生徒が、スポーツを始めるきっかけは、さまざまであり、ごく身近なところから始まります。そう考えると中学生は部活動、小学生となれば、地域のスポーツ少年団が身近な存在となりえます。

スポーツ少年団の活動は、学校時間や家庭時間を除く自由時間に行い、活動拠点は学校内ではなく、地域社会の中にあります。また、スポーツ少年団の主活動であるスポーツ活動は競技スポーツばかりではなく、発育発達段階を考慮したスポーツ活動のほか、学習活動、野外活動、レクリエーション活動、社会活動、文化活動など幅広く捉えていることからスポーツ少年団の指導が小学生期だけでなく、中学生期においても継続的に行われることが望ましいと考えられます。多くの指導者や、多くの大人が関わる事で、子どもたちからみればいろいろな見方や考えがあることを知ることができます。よって、多くの指導者を招聘していきたいと思えます。

③ 課題の克服に向けて？

地域指導者の報酬などのコストは誰が（どこが）負担するべきかについても議論していく必要があります。地域と連携して行う週休日の活動については参加費を徴収することになります。その支払いについては受益者だけに支払わせるのではなく、国や県も一部支払うことが必要であると考えます。

他に、学校体育施設は、地域にとって最も身近に利用できるスポーツ施設であり、地域スポーツの拠点となることが期待されます。しかし、利用手続きが面倒であったり、地域

スポーツのニーズに十分応えているとはいえない状態であります。そのため、学校の体育施設は地域の持ち物であるという考え方が必要です。また、管理についても学校職員の任務から区別できることが望ましいと考えます。

④ どうすれば、他地域に普及することができるか？

このことについては、今実践している稲枝中学校区の生徒や保護者が、どのように受け止めているのか、また、どのような成績を結果として残すことができたのかなど、全てが、今注目の部活動改革であります。一つの拠点校だけでなく、市や県をあげて地域の指導者の発掘を求めていく必要があると思います。地域の指導者を増やすことで、地域の活性化につながり広まっていくように思います。他に地域の高校生や大学生といったOBやOGなどの招聘もひとつかもしれません。

⑤ 各種大会について

運動部活動ガイドラインには「学校と地域が共に子供を育てるという視点に立った、学校と地域が協働・融合した形での地域におけるスポーツ環境整備を進める。」、「スポーツ団体は、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団等の生徒が所属する地域のスポーツ団体に関する事業等について、都道府県もしくは学校の設置者等と連携し、学校と地域が協働・融合した形での地域のスポーツ活動の充実を推進する」、「長期的には、従来の学校単位での活動から一定規模の地域単位での活動も視野に入れた体制の構築が求められる」こと等が示されている。

今現在、多くの学校で部活動については大会等で勝つことを目的に部活動運営をしているところが多いように感じます。ただ、部活動の目的は、個人それぞれであり、個々のレベルに応じた大会を設定することも一つの方向性であると考えます。そのためには、学校対抗という垣根を取り払い、いくつかの学校を合わせてチームとし、運営していくのも一つの方策かもしれません。

顧問等の意見として、「大会が変わらないと、部活動は変わらない」と感じているものが多いと思います。

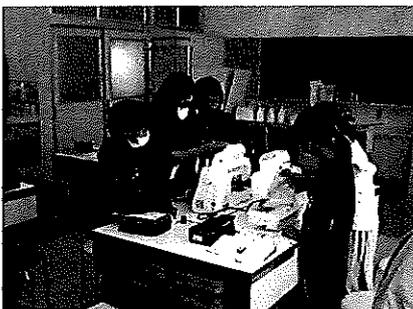
「学校支援ボランティアの方々、地域のみなさん 一年間ありがとうございました」

コロナ禍の一年間、年間を通して、また、スポット的にご支援いただいたボランティアのみなさん、また連合自治会を始め青少年育成協議会、青少年指導委員会、民生児童委員会、社会福祉協議会、公民館、各地区老人会等の各種団体の皆さま、本当に一年間ありがとうございました。コロナ禍での活動はいろいろご苦労も多かったことと思いますが、園児・児童・生徒はもとより先生方、職員の皆さんは、大変喜んでおられます。ぜひとも、ボランティアのみなさん、2022年度もよろしくお願ひします。

学校支援地域協働本部事業の様子

令和3年度もコロナウィルスによる感染が収まらず、緊急事態宣言が出されたり、新しいコロナウィルスの株(オミクロン株)が出現し、この上もなく慎重な体制で教育活動がなされる1年でした。制限された活動でしたが、稲枝中学校支援地域本部事業として、学校支援事業、地域未来塾事業、地域運動部活動推進事業の3方向から活動を実施しました。その様子の一部をご紹介します。

学校地域支援事業



ミンシンの使い方をわかりやすく教えてもらっています(稲枝北小)



ボランティアさんによる花の苗移植作業(稲枝西小)



畑のお手伝いをして下さるおじさんおばさんと玉葱の苗を植えているよ(みづほ保)



お茶クラブ(稲枝東小)



ボランティアさんによる生け垣の剪定作業(ことぶき保)



稲中生の社会貢献活動稲枝駅前のプランターへの花の移植作業



いねかり (ふたば保)



芋掘り (東幼)



読み語り (西小)

地域運動部活動推進事業

年度途中からでしたが、持続可能な部活動と学校の働き方改革の両方を実現するため地域人材の協力を得て、生徒にとって望ましい部活動の実現という二つの目標から、稲枝中学校区地域支援本部地域運動部活動が下記の内容で開始されました。

地域運動部活動 事務局 木村輝男

剣道部 (男女) 地域指導者—林出治男

ソフトテニス部 (女)

地域指導者—赤田洋子

卓球部 (男女) 地域指導者—中川正幸

バスケット部 (男)

地域指導者—河原崎祐嗣

バスケット部 (女) 地域指導者—奥村和彦

地域未来塾事業

稲枝地区小中学校では、児童生徒の学力補充・高校入試対策の補習学習を、次のようなネーミングで実施しています。先生方から好評の声を聞いていますので成果は上がっていると思います。

稲枝中学校 質問教室 稲枝東小学校 かがやき教室

稲枝西小学校 ホップタイム 稲枝北小学校 ぐんぐんクラブ



稲枝東小 かがやき教室の様子

地域とともにある学校

彦根市立稲枝北小学校 校長 山本 かおる

令和2年4月、コロナ禍による臨時休業の中、本校に転任して参りました。稲枝北小学校は地域と深いつながりの中で教育実践が行われていると聞いておりましたが、令和2年6月に学校が再開してからも、新型コロナウイルス感染症の感染予防の観点より、地域と連携した教育活動にも制約があり従来どおりとはいけなくなりました。地域の青少年育成に関わってくださる方々と稲枝北小教育について語り合う「いなむら教育を語る会」の場で、地域の方から「町内行事も中止になり、地域で小学生と触れ合う機会が少なくなりました。登下校の見守りが子どもたちと会話する貴重な機会です。」というお言葉をいただきました。地域の方が子どもたちとの触れ合いを大切に思っていてくださることをうれしく思うとともに、コロナ禍の収束を願うばかりです。

この2年間、制約のある中ではありましたが、池やプールの清掃、校庭の樹木の剪定などの環境整備ボランティア、読み聞かせボランティア、学習支援ボランティア、スクールガードなど、多くの方々に学校を支援していただきました。コロナ禍にあっても「稲枝北小の子どもたちのために」という思いでご支援いただき、厚く感謝申し上げます。温かな地域の方々の思いの中で育つ子どもたちは地域に学び、ふるさと「いなむら」への愛着も育てています。

令和4年度より稲枝北小学校は、学校と地域が心を合わせて子どもを育て「コミュニティ・スクール (学校運営協議会)」を導入します。今までの学校と地域との連携を基盤に、ますます連携・協働し、未来の担い手となる子どもたちを育てていきたいと思っております。今後も本校教育にご理解ご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

令和3年度休日部活動の段階的な地域移行
に係る実践研究成果報告書

米原市教育委員会

令和3年地域部活動推進事業における成果報告書

1 はじめに

本市における地域部活動推進事業は、3年生が引退し、2年生の新チームが発足するにあわせて事業を開始する予定であった。しかし、8月27日から9月30日まで緊急事態宣言の発出を受けて、部活動や保護者説明会を実施できず、また学力テスト等の学校行事もあったため、事業開始は11月からとなった。また11月以降も、今冬の大雪の影響があり計画どおりの練習日を設けることが出来なかった。

こうした条件下であったが、生徒と部活動指導教員、保護者、指導者へのアンケートを実施し、休日における部活動の地域移行に向けた課題や、事業実施を通じた成果の洗い出しを行った。

2 自治体等の概要

自治体名	滋賀県米原市
学校数	小学校9校 中学校6校

3 スポーツ環境

スポーツ関連団体	米原市スポーツ協会 米原市スポーツ少年団 総合型地域スポーツクラブ いぶきスポーツクラブ、NPO 法人カモンスポーツクラブ、 NPO 法人 MOS スポーツクラブ、(一社)近江スポーツクラブ (公財)伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団
社会体育施設	【アリーナ】 米原市民体育館、米原市息郷体育館、米原市双葉総合体育館、 ウッドピア伊吹 【グラウンド】 米原市山東グラウンド、米原市伊吹第1グラウンド、米原市 伊吹第2グラウンド、米原市伊吹テニスコート、米原市米原 野球場、米原市すぱーく米原、米原市近江グラウンド、米原 市番場多目的広場

学校体育施設	<p>【アリーナ】 柏原小学校体育館、山東小学校体育館、大原小学校体育館、春照小学校体育館、柏原中学校体育館、米原小学校体育館、河南小学校体育館、息長小学校体育館、坂田小学校体育館、大東中学校体育館、伊吹山中学校体育館、米原中学校体育館、河南中学校体育館</p> <p>【運動場】 柏原小学校運動場、山東小学校運動場、大原小学校運動場、春照小学校運動場、伊吹小学校運動場、柏原中学校運動場、米原小学校運動場、河南小学校運動場、息長小学校運動場、坂田小学校運動場、大東中学校運動場、伊吹山中学校運動場、米原中学校運動場、河南中学校運動場、双葉中学校運動場</p> <p>【柔剣道場】 大東中学校柔剣道場、米原中学校柔剣道場、河南中学校柔剣道場</p>
--------	--

4 地域部活動推進事業の概要

事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な部活動と学校の働き方改革の実現 ・生徒にとって望ましい「地域スポーツ」の実現 	
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のスポーツ団体との密接なつながりのある地域での実践を通して、学校と連携しながら地域の部活動として継続していくため、拠点校区に所在する公益財団法人を運営主体とし、休日等における部活動を「地域スポーツ活動」として実施した。 ・「地域スポーツ活動」として実施する部活動は、卓球部男女およびホッケー部男女とした。 	
地域移行に向けた検討課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域部活動の受け皿の確保 ・指導者と部活動顧問との指導方針の共有 ・適切な指導者の確保 	
拠点校	学校名	伊吹山中学校
	生徒数	134人
	部活数	卓球部（男子・女子）

		<p>ホッケー部（男子・女子）</p> <p>野球部（男子）</p> <p>創作部（男子・女子）</p>
	指定 部活動	<p>卓球部（男子・女子）</p> <p>ホッケー部（男子・女子）</p>
運営主体	団体名	公益財団法人伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団 （以下、「事業団」という。）
	団体 概要	拠点校の学区内に所在し、地域の文化活動、市民の健康増進および青少年の健全育成を図る各種事業を実施する公益財団法人。県および市の文化・スポーツ施設の指定管理者として管理・運営を担っている。

5 地域部活動推進事業の課題と成果

地域部活動の受け皿の確保	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●地域への移行に当たっては、指導者の手配や謝金の支払い、学校との調整など事務的な業務が多岐にわたり、地域の競技団体等ではそれらを担う事務局体制が無かった。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ●これまでから地域の競技団体や指導者とのつながりがある事業団を運営主体としたことで、「地域スポーツ活動」の核ができた。 ●事務局体制のある事業団が運営主体を担うことで、地域の競技団体や地域指導者は実技指導に専念する役割分担ができた。 ●卓球およびホッケーについては、各競技団体等が小中学生を対象にした普及活動や競技力向上の取組を行っていたところであり、事業団が学校や各競技団体等と連携し、コーディネートすることで、生徒の練習環境を大きく変えることなく休日の部活動を「地域スポーツ活動」として実施できた。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ●現状の事業団の事務局体制では、市内全中学校の部活動の受け皿となることはできない。 ●市内において「地域スポーツ活動」は、地域や既存団体、学校の方針により様々な形態になると思われる。

	●モデル事業終了後の事業費の確保
--	------------------

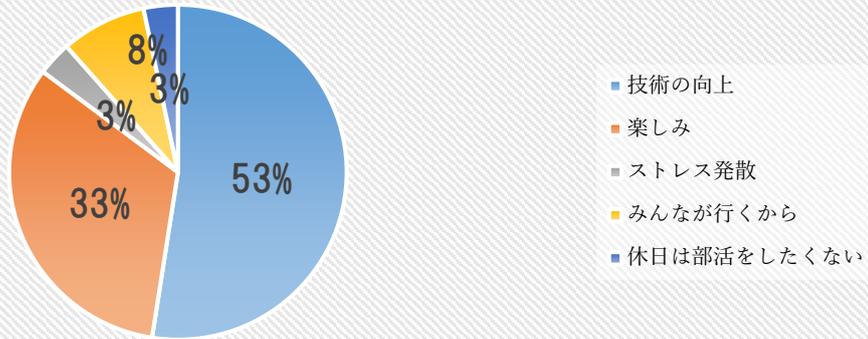
指導者と部活動顧問との指導方針の共有	
課題	●技術指導に複数の指導者が関わることで、指導方針の違いが生じ、生徒が戸惑わないか。
成果	●卓球部およびホッケー部は、これまでから地域の指導者の関わりがあり、生徒の練習環境を大きく変えることなく実施できたことから生徒に大きな戸惑いはなかったと思われる。 ●事業実施の初年度であり、地域スポーツ活動に教員も参加しながら実施できたことで、生徒に大きな戸惑いはなかったと思われる。
今後の課題	●地域指導者と関係性が構築されていた教諭が異動した際でも、事業が実施できる体制の構築 ●地域指導者により違いのある技術指導の中から、自ら考え、選択できる生徒の育成。

適切な指導者の確保	
課題	●競技の指導者であり、教育の指導者となる地域指導者の確保
成果	●行政、運営主体、地域指導者の代表、学校長等で開催した連絡協議会での協議や意見交換により、これまで部活動が担ってきた、スポーツを通じた教育の重要性を共通認識できた。
今後の課題	●地域指導者は、スポーツを通じた教育を念頭に指導に当たっておられるが、教育者の役割を担うことに対して不安はあるのと意見もあり、学校と地域指導者の役割や、活動への関わりを検討する必要がある。

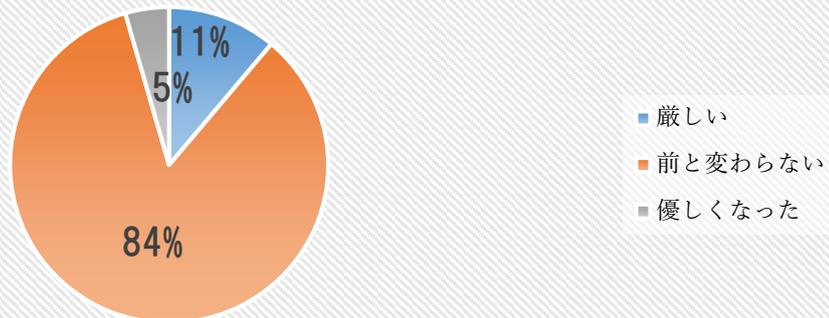
6 事業実施に係るアンケート結果

生徒向けアンケート結果（拠点校：伊吹山中学校）

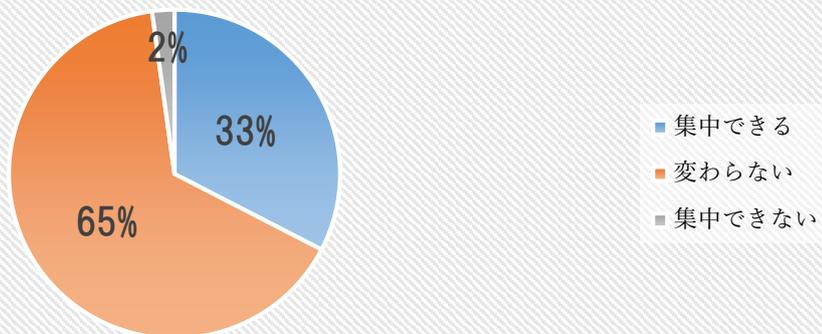
休日の部活動に参加する目的は？



休日部活動の指導は？



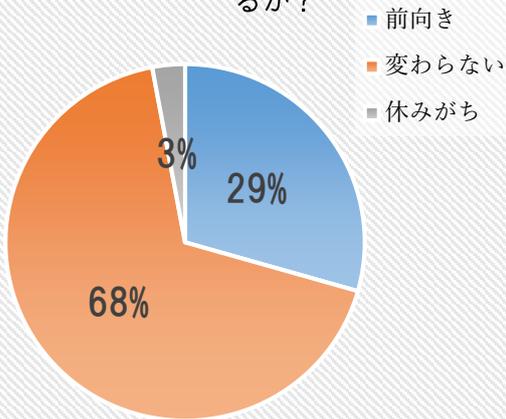
休日部活動に集中できますか？



休日部活動の指導で技術は上達しましたか？



休日部活動に前向きに取り組んでいるか？



主な意見

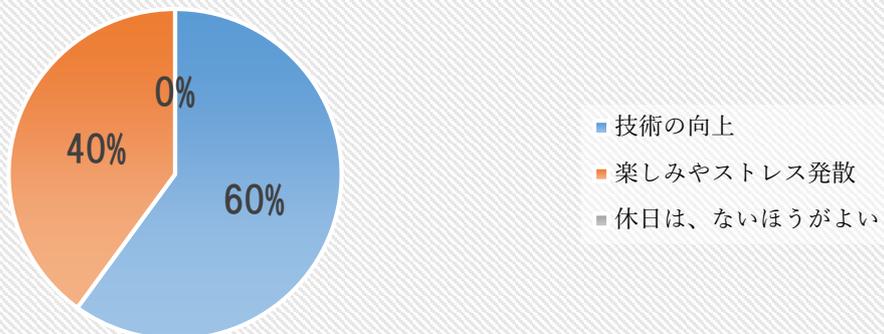
【前向き】

- ・競技種目が好きだから
- ・練習時間が増えて、強くなりたいから
- ・平日の短い練習時間のみでは少ない
- ・上手になりたいという向上心があるから

【変わらない】

- ・友だちと体を動かすのが楽しいから
- ・以前から休日も参加しており、環境が変わらないため

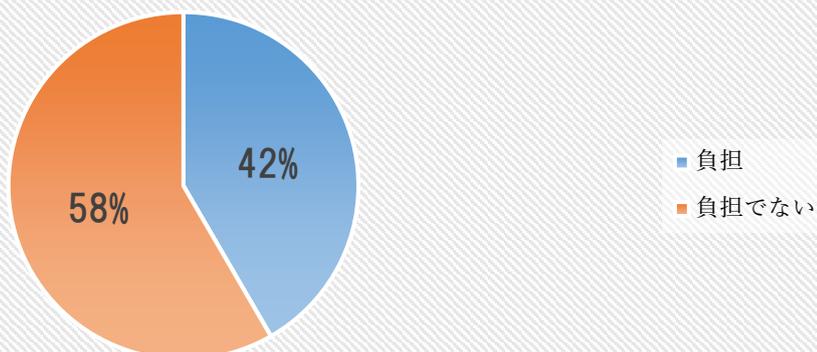
休日の部活動に求めることは？



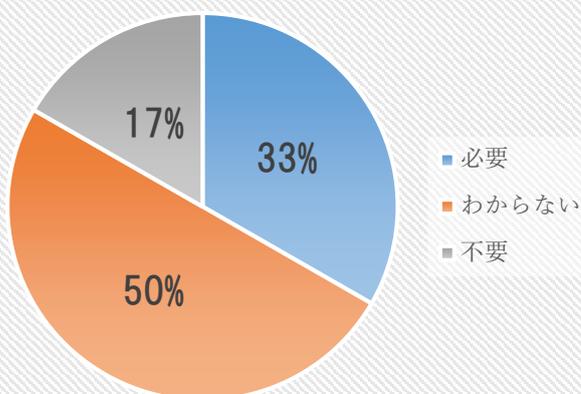
休日における部活動の時間的負担



休日における部活動の精神的負担



休日部活動の地域移行について



主な意見

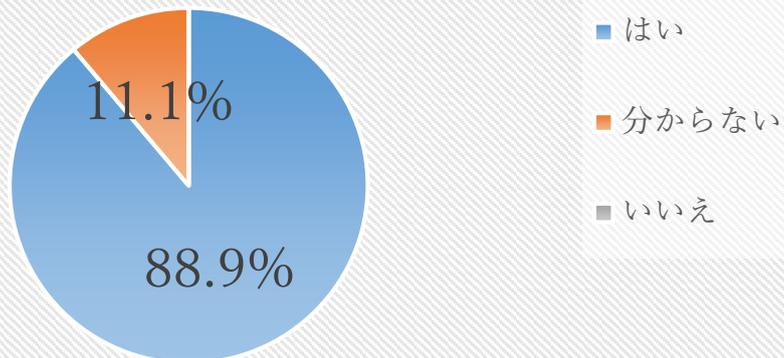
- ・指導者に来てもらえるのはありがたいが、顧問も参加するなら今までとあまり変わらない。
- ・体制を整えてから移行すべき。
- ・地域に適任者が多数おられるわけではないのが課題。
- ・部活を地域に任せるということは現段階では難しいと思う。

休日部活動を進める中で、部活動の精神的・時間的な負担はどう変わったか。(自由記述)

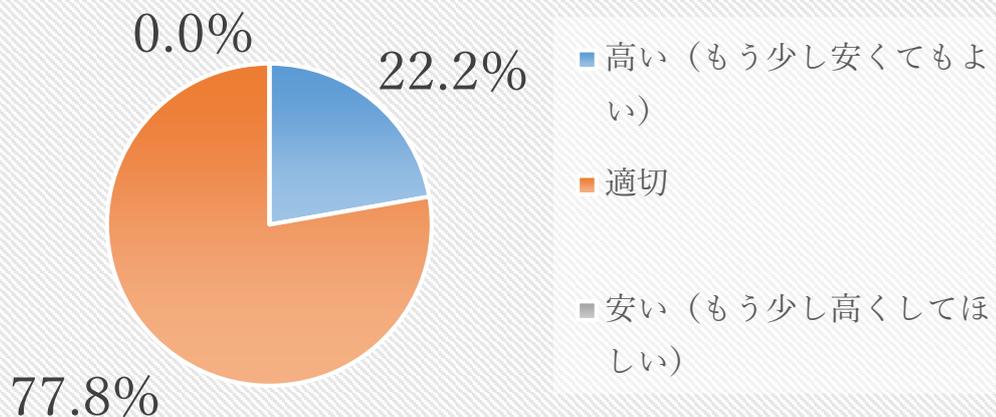
- * 大きな変化はない。
- * 他の地域の方と連携を取る必要が増えた。
- * 地域部活動による生徒指導問題をどのように捉えるか。
- * 以前から地域の方に関わってもらってきたので、このようなことは可能な部分もあるが、すべての部で実施するのは課題が多く感じる。地域指導者との連絡や指導方針のすり合わせなどの必要がある。

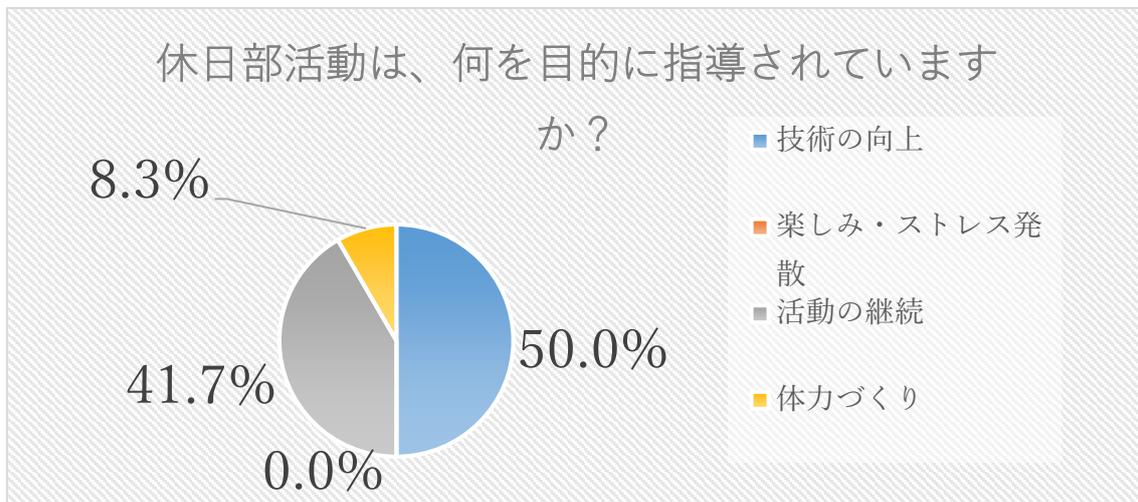
地域指導者向けアンケート結果

次年度も引き続き指導いただけますか



指導に対する謝金は適切ですか？





指導するうえで課題は何ですか（自由記述）

- * 顧問との連携（指導方針、方法）が大切
- * 指導者間の、指導スケジュールや指導方針の共有
- * 指導者が多いので生徒が指導方針の違いに戸惑わないか？
- * 『自分の意思を相手にしっかり伝えることが出来るコミュニケーション能力を育てる』という指導ができていますか。
- * 指導時間の確保が難しい。
- * 各生徒によって熱量の違いがある。
- * 個々の運動能力、運動神経の理解。
- * やる気を出させるためにどのように工夫していくか 1000
- * 家庭の事情で参加できない家庭への支援・助成
- * 分かりやすく指導すること。
- * 生徒たちの性格の把握が難しく、接し方がわからないことがある。
- * 技術の教え方・子どもたちへの指導の仕方など勉強していくことが必要。